

明治、大正、昭和の遊びをととしてアクティビティサービスを学ぶ

— 伝承遊びお手玉について —

阿 南 國 子

はじめに

学生が施設実習に行き、まずはじめに困ってしまうのが利用者との間におけるコミュニケーションが、うまく行かないということである。ひどい時は利用者から「なにしにきたん？もう来なくていいよ！」と言われたと、巡回指導に施設を訪れる私を玄関で待ち、泣きながら訴える時がある。利用者にそう言われるには色々な理由があると思うが、コミュニケーションがうまくいっておれば、そのような事態に至らなかったのではないかと考える。

人は子供の頃の環境、風景、遊びを心の原風景として一生持ち続けるといわれ、俗説ではあるが、心の原風景の同じ男女が結婚するとその結婚は非常にうまくいくといわれている。いわゆる原風景の赤い糸説である。長い人生において仕事や日常生活に追い回され徐々にその記憶は心の奥深く埋没してしまうが、ふとした機会に昔遊びに接した時、心の原風景を思い出し懐かしさで心を和ませる。その感情を糸口として会話も弾み信頼関係も生じ、同時にコミュニケーションも円滑となり利用者個々に適した援助活動が可能となる。明治、大正、昭和の各時代の遊びを研究し、高齢者がどんな遊びをしていたか知ることにより、有効なアクティビティサービスを学ぶことも可能である。心の原風景である遊びのなかでも伝承遊びであるお手玉は最近、目や腕、脳を同時に働かせることで動体視力や反射神経が養われ姿勢もよくなり、注意力や集中力も高まると評価され子供から高齢者まで盛んに行われている。

今回、明治、大正、昭和の各時代に高齢者がどんな遊びをしていたか。出生地での遊びの種類、場所、どんな人と遊んでいたか等を知るためにアンケート調査を実施した。お手玉についてはお手玉遊びをしていたか、個数は、中身は何をいれていたか、どんな歌を歌ってお手玉遊びをしていたか聞き取り調査を実施。学生については福祉学科の学生にも同様のアンケート調査を実施し、伝承遊びとしてのお手玉が若者にどう伝承されているかを調査した。また2回生には今後のアクティビティサービスに活用できるようにMyお手玉をゼミの学生指導のもと2個ずつ作成したお手玉について活用の有無等をアンケート調査した。

1. 高齢者に対するアンケート

- (1) 対象 施設入居者 23人
 地域老人会 30人
- (2) 期間 平成15年5月～7月
- (3) 方法 アンケート及び聞き取り調査

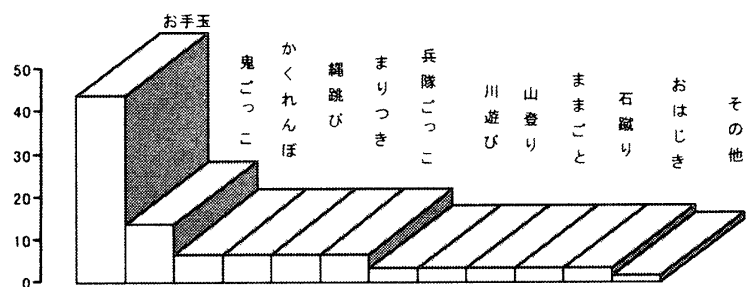
2. 現在の若者に対してお手玉のアンケート

- (1) 対象 福祉学科1, 2 回生
- (2) 期間 平成15年6月～7月
- (3) 方法 アンケート方式 (アンケート内容は別記参照)

3. 遊びについて高齢者アンケート結果

(1) 明治

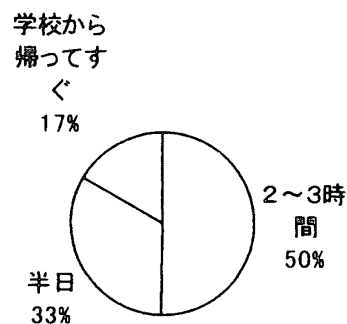
①遊びについて (明治) [男女]



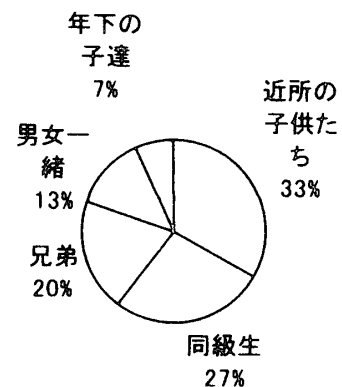
お手玉	44.2
鬼ごっこ	13.6
かくれんぼ	6.8
縄とび	6.8
まりつき	6.8
兵隊ごっこ	3.4

川遊び	3.4
山登り	3.4
ままごと	3.4
石蹴り	3.4
おはじき	3.4
その他	1.4

②1日どれくらい遊んでましたか。(明治)

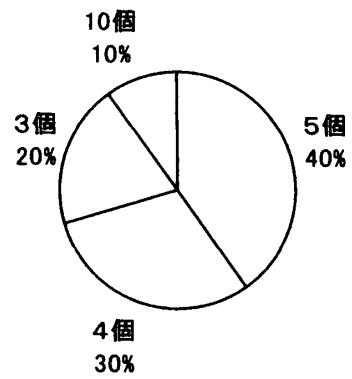
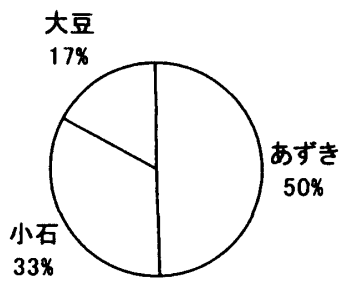


③どんな人と遊んでましたか。(明治)



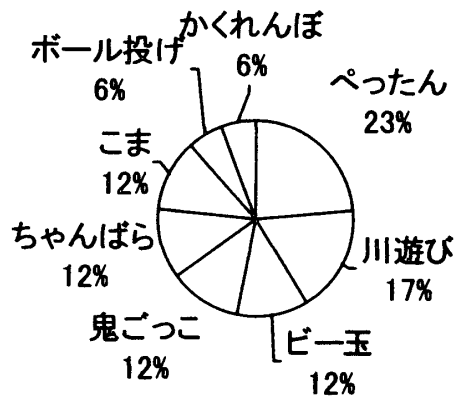
④お手玉の中に何を入れましたか。(明治)

⑤お手玉を何個使っていましたか。(明治)

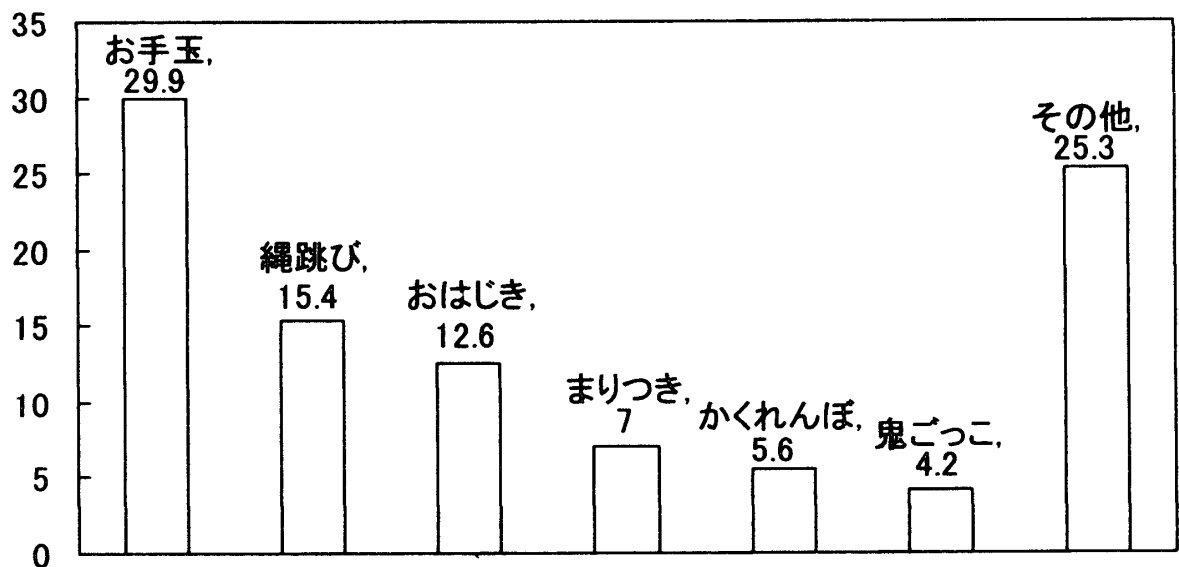


(2) 大正

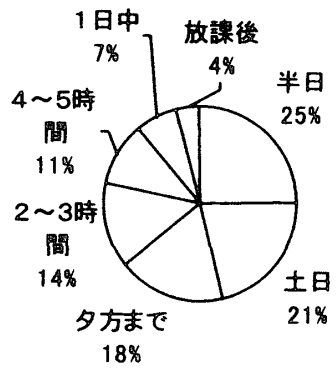
①遊びの種類について (男)



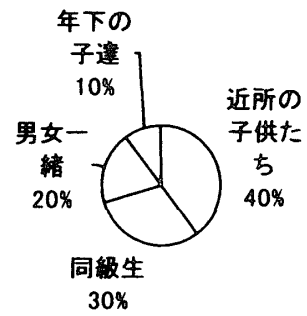
②遊びの種類 (女)



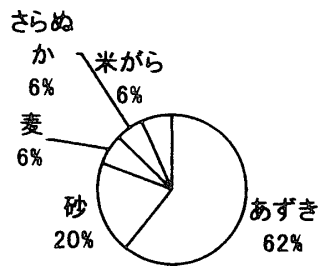
③ 1日どれくらい遊んでましたか。(大正)



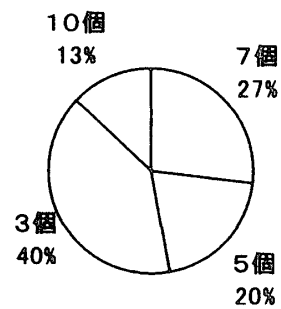
④ どんな人と遊んでいましたか。(大正)



⑤ お手玉の中に何をを入れてましたか。(大正)

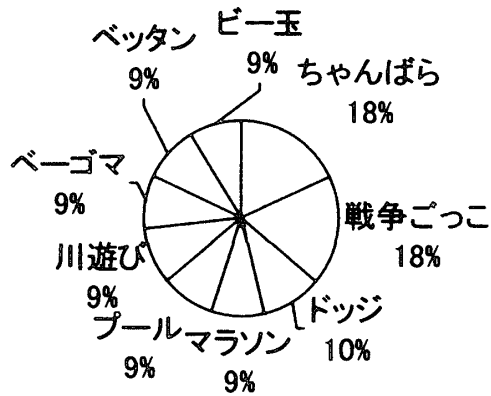


⑥ お手玉は何個使っていましたか。(大正)

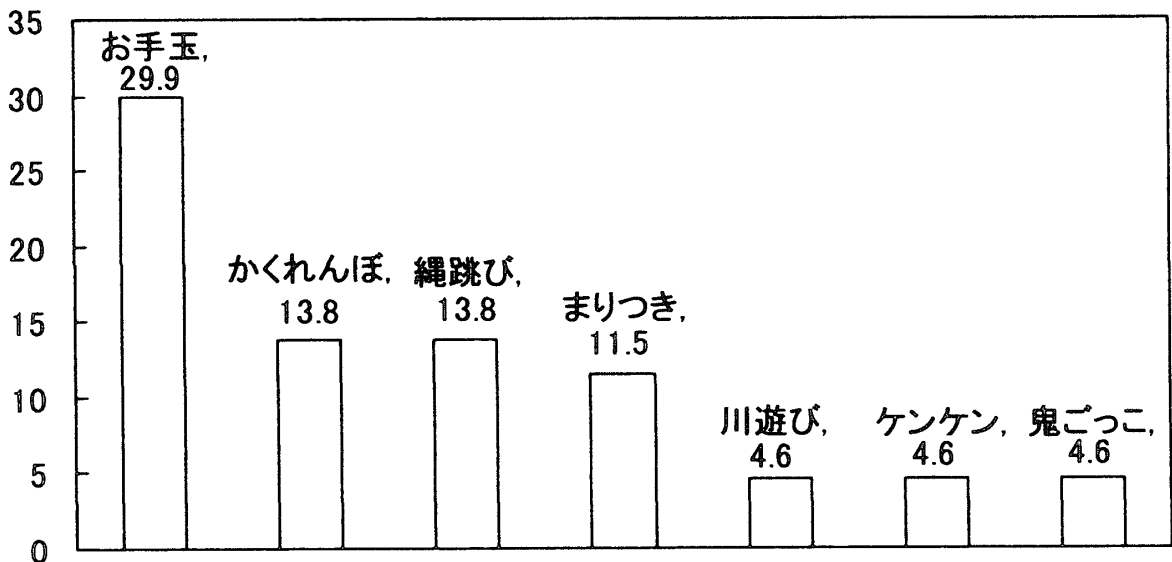


(3) 昭和

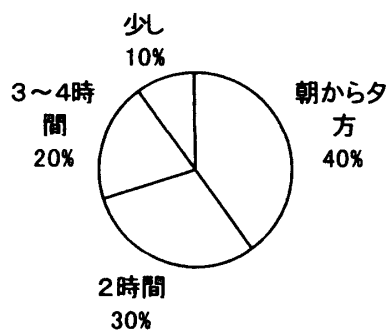
① 遊びの種類について (男)



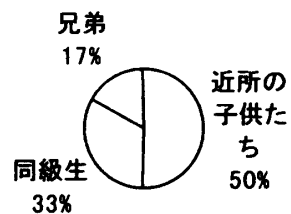
② 遊びの種類 (女)



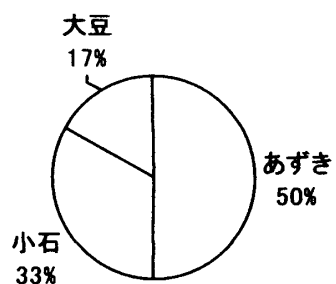
③1日どれくらい遊んでましたか。(昭和)



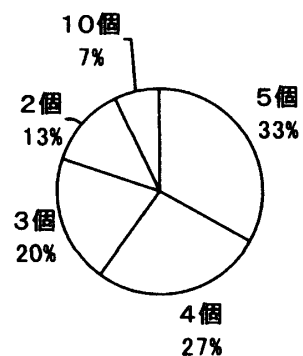
④どんな人と遊んでいましたか。(昭和)



⑤お手玉の中に何をに入れてましたか。(昭和)

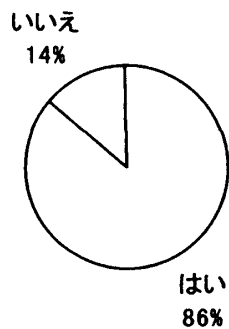


⑥お手玉は何個使っていましたか。(昭和)

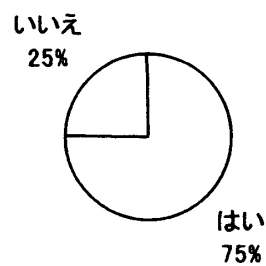


(4) お手玉について。

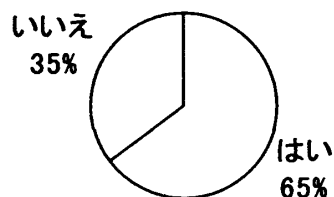
①子供の頃お手玉を使った遊びをしましたか。(明治)



②子供の頃お手玉を使った遊びをしましたか。(大正)



③子供の頃お手玉を使った遊びをしましたか。(昭和)



④お手玉でどんな遊びをしましたか。

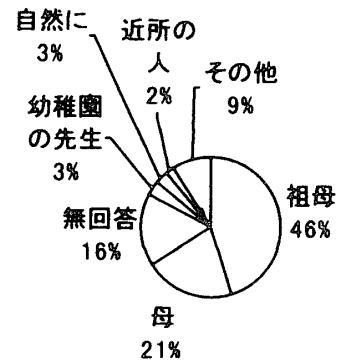
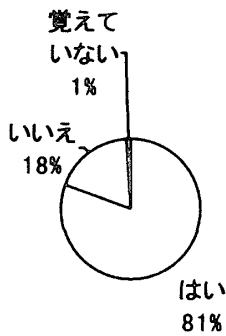
- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 順に上下へ投げる。 | 2. ひとつずつ歌を歌いながら上げる。 |
| 3. 落とさず何回続けるか競争。 | 4. いくつか転がしたりする。 |
| 5. 手まりにして遊ぶ。 | 6. その他 |

⑤どんな歌で遊んでいましたか。

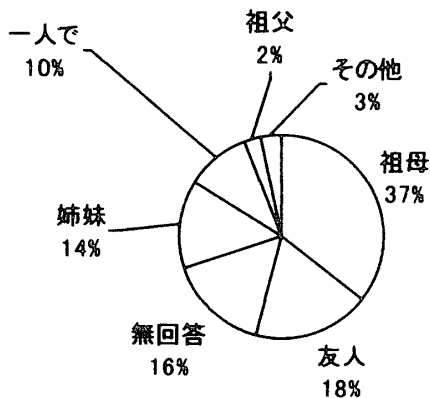
- | | |
|-------------------|-------------|
| 1. 数え歌 | 2. おじゃみの歌 |
| 3. 賛美歌 | 4. しゅうようだん |
| 5. からすがカーカーなっている | 6. いろいろ |
| 7. おさらをひとつおろしておさら | 8. 童謡 |
| 9. 青葉茂れる | 10. 一の宮 |
| 11. あんたがたどこさ | 12. 小さい橋渡れ～ |
| 13. うぐいすが～ | 14. 地域の歌 |
| 15. いろいろな歌 | 16. その他 |

4. 若者（福祉学科学生）のお手玉についてのアンケート調査

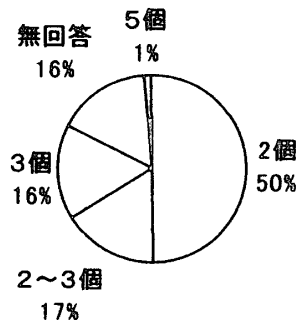
(1) 子供の頃お手玉を使った遊びをしましたか。 (2) 誰に教えてもらいましたか。



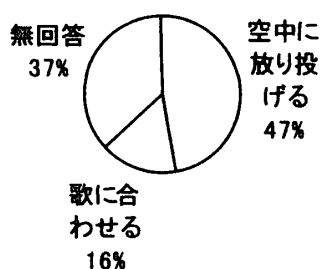
(3) 誰と遊びましたか。



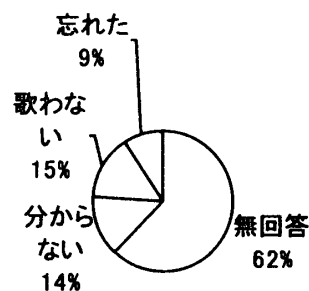
(4) お手玉は何個使っていましたか。



(5) どんな遊び方をしていましたか。



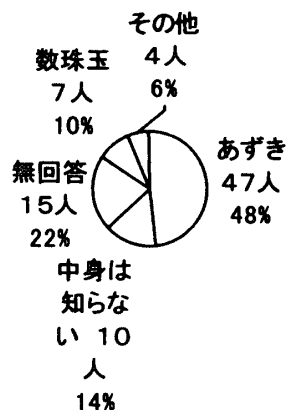
(6) どんな歌を歌っていたか。



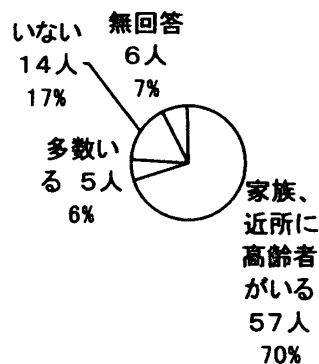
①歌の種類

1. 1 かけ 2 かけ・・・1 かけ 2 かけ 3 をかけ、4 かけて 5 かけて橋をかけ橋の欄干腰かけて・・・
2. 数え歌・・・地域により歌詞多数
3. おさらい・・・おひとつ、おひとつそろえておさらい、・・・
おふたつ、おふたつそろえておさらい、・・・
4. 川中島・・・西条山霧深し、筑摩の河の浪荒し・・・
5. 青葉茂れる・・・青葉茂れる桜井の・・・
6. 一列談判・・・一列談判破裂して、日露戦争始まった・・・

(7) お手玉に何を入っていましたか。

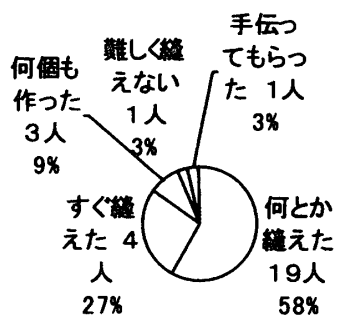


(8) 家族、近所に高齢者はいますか。

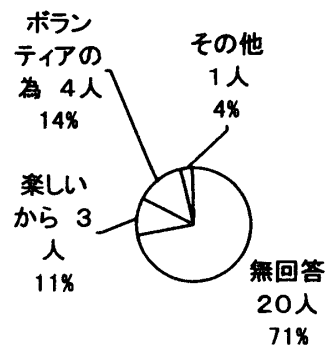


5. ゼミ学生の指導によりお手玉を作成した
2 回生を対象にしたアンケート結果 (28人)

(1) お手玉作りは難しかったですか。

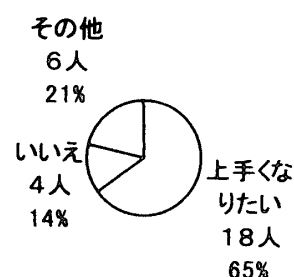
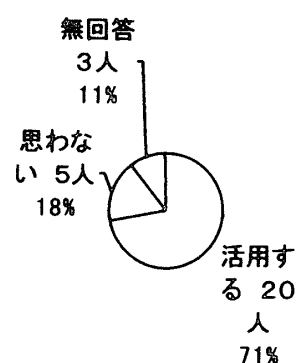


(2) たくさん縫った理由は。



(3) アクティビティサービスに活用しますか。

(4) 練習してうまくなりたいですか。



(5) お手玉作成を通じての感想は。

- ①上手になりたい (3人)
- ②はじめは縫い目が粗く中身が出たりしたが、縫っているうちに楽しくなり何個も作った (2人)
- ③昔の人は色々と考えて小豆を入れた工夫、又他の動物を作る工夫等すごいです。
- ④かえるのお手玉作りをいましています。
- ⑤お手玉最高!
- ⑥何とかMyお手玉を作ることができたのでお年寄りとの遊び、交流に活用したい。
- ⑦お手玉作りは意外と簡単だったので作ろうと思えば作れるという自信がついた。
- ⑧たくさん縫って利用者にプレゼントしたい。(2人)
- ⑨施設に就職したらお手玉作りや遊びに役立てたい。(3人)

6. 分析及びまとめ

アンケート方法が聞き取り調査方法であったため、話が横に逸れ長々と自己の話をしてこちらが聞きたい質問には、忘れたなど答えたりし、なかなか明確なる回答を得にくく、多数の聞き取り調査を実施できなかった。(男女比は男15.1%、女84.9%) 高齢者社会の中、やはり女性の平均寿命が優位に働き90歳以上は女性のみであった。施設に入所している男女比にも共通している点である。

年齢は75～79歳が15人、80～84歳が12人、85～90歳が7人、70～74歳が6人、94～96歳が5人と施設入居者の年齢と相通じる所があった。子供のころ育った地域は奈良でのアンケート調査を実施したため、奈良26人、他府県(大阪、和歌山8人、兵庫2人、鳥根、福井、岡山、京都、三重、広島、熊本、大分、山梨1人)で西日本地域であったため、地域による特色的な遊びはなかった。遊びの種類は各時代を通して男の子はベッタン、ビー玉、チャンバラ、川遊びと自然の中で家の手伝いをしながら半日～1日中遊んでいた。昭和になると戦時色が強くなり兵隊ごっこ時代を反映している。女の子はお手玉、おはじき、ままごと、かくれんぼ等となっているが伝承遊びのお手玉は各時代を通じて遊ばれていた。

[伝承遊びお手玉について]

お手玉は古い歴史があり、有史以前から動物の骨片で作ったお手玉遊びがあったといわれている。ギリシャ神話にオリンポスの神々達がお手玉を楽しんだとの話もあり、アジアではインドが発祥地で中国

を経て奈良時代の日本に伝わり、平安時代には宮中の遊びとなっている。

[名称]

現在ではお手玉は全国的に共通した名称であるが、その前身は「いしなご」、「いしなとり」と呼ばれ小石で遊ばれていた。「梁塵秘抄」に「石取り（いしなとり）」、西行の歌中にも「石子（いしなご）」と出ている。江戸時代に入り小石の代わりに木の実、貝殻を入れるようになり明治以降になると小豆、木の実、小石等を入れ全国津々浦々に広がり女の子の代表的な一種目となった。名前（別称）は小豆玉、おいえだま、おじゃんめ、おにんく、ざぐらとり、あといちや、おいつこ、おしなご、おさらい、おじやみ・・・と159称あるとのことである。またお手玉の遊びでは、お手玉歌を歌って行うので歌詞よりの命名もあり、①おさらい、おさら、おさらい②おひとつ③いちれつらんぱん等もある。アンケートによる回答は、お手玉、おじやみと呼んでいて変わった呼称はなかった。

[お手玉の中の内容]

お手玉の中に何を入れていたかは、いしなごといっている位小石が入っていたが江戸期になり小石の代わりに数珠玉、木の実、貝殻が使用されるようになる。小石も使用されていたが、小豆は操作するときの音の響きや重量感、感触も良く愛用されていた。食物を大切に作る農村や山村では小石を入れることがあったが音色、感触が悪いばかりでなくて手が痛く、布が破れやすいので不人気であった。アンケート調査でも50%以上の人が小豆を使用しているが小石も33%を占めていて他は雑穀類（大豆、麦、米穀等）であった。また非常食として小豆をお手玉にいれておき、いざというときに紐解いて食べていた。食糧難時代は石を入れることが多かったと高齢者は答えていた。福祉学科学生アンケートでは、小豆56%、数珠玉8%、大豆、細かくしたストロー、そばがら、小石となっているが品物豊富な時代を反映していると考察する。中身が何かわからない10%と回答があったが、手作りするという習慣が少なくなり既製品のお手玉が出回り内容が分からないためと考える。

[お手玉遊びの種類]

いしなご、いしとりの場合もお手玉の場合も1個を空中に投げ上げ、それが落下する間に床上の1個をとり落下するのを受け取る。この要領で全部とり終わる。これを「取り」という。両手にお手玉を持ち、それを交互に上げて落とさないようにするのを「突き」といい、このように2種類の遊びがある。「突き」場合の姿勢については、2個のお手玉を左右の手に持ち、手を交互に動かしながらかお手玉を上げ左右に移し替えるのでこの方法は立って行う基本姿勢である。「取り」の場合は数個のお手玉を床に置き一つのお手玉を放り投げている間に床のお手玉を持ち上げるので座位の姿勢となる。

[お手玉の数]

何個使って遊んだかの質問に対して前記のグラフの通りであるが、高齢者は4～10個使用していた人が60%以上を占めているが、学生は2個が43%と2～3個が殆どであり遊び方は無回答を除くと「突き」であり現在は「取り」という遊び方はほとんどされていないと考えられる。

[お手玉の歌]

お手玉の歌は全国的に共通な歌と地方特有な歌とがある。地方特有の歌は省略するが全国的に歌われていた歌を数種列挙すると、

・ 一列談判破裂して日露戦争始まった・・・・・・・・・・。(一列談判)

- ・一番初めは一の宮、二は日光東照宮・・・・・・・・・・。(一の宮)
- ・おひとつおとして、あさあらし、おふたつおとして・・・・・・・・・・。
- ・西条山は霧深し、筑摩の河は浪あらし・・・・・・・・・・。(川中島)
- ・青葉茂れる桜井の、里のあたりの夕間暮れ・・・・・・・・。(青葉茂れる桜井)
- ・一かけ、二かけ、三をかけ、四かけて、五かけて橋をかけ・・・・・・・・。(一かけ、二かけ)

また軍歌やまり歌もお手玉遊びとして歌われていた。アンケート調査で歌われていた歌の集計は前記の通りである。高齢者の場合、高齢のためか忘れた、覚えていないなどと答える人が多かったが地域的特色はなかった。学生の場合はわからない、忘れたと回答する人が多かったが中には歌を歌わずにやっているのが15%あった。若者も高齢者も歌は変わらないが、歌わずにする、忘れた等お手玉歌もだんだん歌われなくなっていると考ええる。

[伝承性について]

誰にお手玉を教えてもらったかの質問に前記のグラフの通りであるが、祖母や母であり少数であるが近所のおばちゃんにも教えてもらい伝承されている。お手玉の遊び相手として祖母、母、祖父、友達等となっていて現代でもお手玉が伝承遊びであることを証明している。

[2回生がお手玉を作成した]

何とか縫えたから楽しくなり何個も縫ったという学生が92.8%と高率で、お手玉作りはお手玉作りは達成感を味わい楽しかったという学生が多かったため有効であったと考える。お手玉作りを今後アクティビティサービスに活用したいと思う学生は71.4%、お手玉作りを上手になりたい64%とアクティビティサービスにお手玉を活用しようと前向きに考えている学生が多かったのは嬉しいことである。

7. 終わりに

明治、大正、昭和の遊びを高齢者にお話を伺ったが、昔は労働をしながら、子守をしながら遊びましたと話されるが、自然を友として遊んだことは懐かしく目を輝かせて話しておられ、昔の遊びはコミュニケーションを円滑にすると実感した。また、各時代を通してお手玉遊びは遊びの中でも人気があり、本学福祉学科の学生では80%の学生で経験があり、家庭や近所に高齢者がいる学生は75%と多いのは、自然が多く家庭を大切に暮らしている奈良県の特徴からとも考えられる。学生がお手玉を作成し上手下手は別として70%以上の学生が縫えたという達成感からかアクティビティサービスに活用したい、との回答があったことはお手玉作りは有意義であったと考える。

「日本お手玉の会」(本部新居浜市)が平成15年度サントリー地域文化賞を受賞した。本年度お手玉奈良大会は諸般の事情で中止となったが全国大会は9月に福岡で開催される。いつの日か全国大会に参加できることを期待している。最後にアンケートに御協力くださった、平城園、すばる、地域の老人会のみなさまに心よりお礼を申し上げます。

参考文献

- 下川 耿史著 「昭和平成家庭史年表1926～2000年」
- 「明治大正家庭史年表1868～1925年」河出書房新社

- 田中 邦子著 「シリーズつくって遊んで① お手玉しましょ」 一声社
半澤 敏郎著 「童遊文化史 1」
「童遊文化史 2」 東京書籍
下川 耿史著 「近代明治大正子供史年表」
「近代昭和平成子供史年表」 河出書房新社
小川 清美著 「子供に伝えたい伝承遊び」 萌文書林
藤本 浩之輔 「聞き書き明治の子供」 本邦書籍
西澤 稔 「お年寄りの歩んだ時代」 中央法規